



No. 145

たっくだよ

最終号 2026.3.23



子ども発達センターたっく

住所：〒432-8006
浜松市中央区大久保町 5388-1
TEL：053-485-6122
FAX：053-485-6115

在園児 163名 (3月23日現在)

- ◆児童発達支援 38名
- ◆放課後等デイサービス 57名
- ◆親子教室たっく 68名

児童発達支援 1月～3月の様子

～1月 お餅つき～

1月、園庭で餅つきを行いました。最近ではなかなか見ることが少なくなった杵と臼。朝の会で「持ち方」や「つく時のコツ」を親子でしっかり練習してから本番に臨みました。その甲斐あって、当日はみんなとても上手に力強くお餅をつくことができました。出来たてのやわらかいお餅は格別の味でしたね。日本の伝統に触れながら、お腹も心も満たされた楽しい一日となりました。



～2月 パネルシアター～

2月は、やまねこママさんをお招きし、「くだものクイズ」と「てぶくろ」のパネルシアターを楽しみました。

「くだものクイズ」では、答えがわかると「はい！」と元気いっぱい手を挙げ、みんなの前に出て堂々と発表する姿に、大きな成長を感じました。続く「てぶくろ」のお話では、物語に合わせてみんなでシャカシャカとマラカスを演奏。動物たちになりきって劇に参加するなど、会場が一体となって盛り上がりました。見て、答えて、奏でて。五感を使って物語の世界を存分に楽しんだ、笑顔あふれるひとときとなりました。



～3月 ウォットへ行きました～

みんなが楽しみにしていた「ウォット」へ行きました。行く前からカルタや本で「どんな生き物がいるかな？」とワクワクしていた子どもたち。当日は、お家の方や友達と大きな水槽をじっくり眺めたり、クイズの答えを探したりと、夢中で見学を楽しみました！



放課後等デイサービス 1月～3月の様子

～ 親子で楽しむコンサート ～

1月31日(土)、志太室内楽団の皆様をお招きしました。木管楽器や弦楽器の生演奏を間近で聴き、楽器の響きや演奏者の息遣いを肌で感じる貴重な体験となりました。

合奏やクイズコーナーでは親子で一緒に盛り上がり、どの子も真剣な表情で聴き入る姿が印象的でした。「自分もやってみたい！」という声も聞かれ、音楽への興味が大きく膨らんだ一日となりました。



～ うどん作り ～

2月7日(土)、今年度2回目となるうどん作りを行いました。今回のテーマは「親子で協力」。小麦粉を一生懸命こねたり、慎重に生地をのばして切ったりと、親子で息を合わせて取り組む姿がとても印象的でした。

ゆであがったうどんに「少し硬いけどおいしいね！」と笑顔がこぼれます。中には「家でも何度か作ってみたよ」という声もあり、たっくでの経験がご家庭での親子のふれあいに繋がっていることを、職員一同とても嬉しく感じました。

～サークル鬼ごっこ～

1月から2月にかけて「サークル鬼ごっこ」を楽しみました。

「1対1でできる鬼ごっこだよ」と伝えると、最初は「？」と不思議そうな顔をしていたこどもたち。しかし、この遊びは単に走るだけでなく、「見る」「判断する」「切り返す」といった、考える力も必要とされる奥の深い運動です。

最初はすぐに捕まってしまう子も、相手の動きをよく見てフェイントをかけたり、逃げ方を工夫したりと、回を重ねるごとに力強い動きが見られるようになりました。

繰り返し取り組むことで、体力だけでなく「どうすればうまくいくか」を考える楽しさも実感できたようです。これからも運動が大好きになり、興味の幅が広がるような活動を大切にしていきたいと思います。



一年を振り返って

児童発達支援

児童発達支援では、日々の生活やあそびの中で、一人ひとりの「やってみよう」という気持ちが育つ姿が多く見られました。

食事や着替え、排泄などの生活習慣では、職員のことばかけや見通しを頼りに、自分で取り組もうとする姿があり、次のことを意識して行動する様子も見られるようになってきています。一方で、清潔習慣や排泄については、気持ちや場面によって難しさが出ることもあり、引き続きご家庭と連携しながら支援していきたいと考えています。

運動や制作あそびでは、繰り返しの経験を通して道具の使い方に慣れてきました。苦手なことには、「わからない」「手伝って」「どうやるの?」と伝えてくる姿が見られ、見本を示したり、具体的にゆっくりことばと動作で伝えることで、職員と一緒に挑戦しようとする様子がありました。

また、「一緒にあそびたい」という気持ちが育ち、友達の近くに行ったり、同じあそびを楽しもうとする姿も多く見られました。上手くことばで伝えられず、自分の思いを強く表現してしまうこともありますが、職員が間に入りながら気持ちを整理し、人と関わる楽しさを感じる経験も積み重ねています。

一年間、温かいご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。来年度も、こどもたち一人ひとりの育ちに寄り添いながら、安心して過ごせる支援を続けてまいります。

放課後等デイサービス支援

今年度は、こども達が、自分で「考え」「選び」「行動する」主体性を育むために、自己決定の機会を増やしてきました。来所時には、ゆとりを持って活動に取り組めるように時間をたっぷり設定し、選択活動(カードゲームやこま回し、人生ゲーム、将棋、外活動など)を行いました。自分で選ぶ「自己決定」、友達を誘う、一緒にあそびを共有する「言語・コミュニケーション・社会性」片付ける「生活習慣」などの力が育まれたと思います。

さらに、見通しを持って活動に参加ができるように今日の予定をホワイトボードに記入したり、予定を自ら記入したりしました。SST(ソーシャルスキルトレーニング)を行い、これから起こる自分の気持ちを予想したり、振り返りを行い実行してみて「どんな気持ちだったか?」等自分の気持ちの振り返りを行ったりしました。怒れたり、悔しかったり、面白かったりこども達の素直な気持ちが表に出る場面がたくさん見られました。感情の表出は、これからのこども達の社会性の育ちに繋がっていく、とても大切なことだと私達も考えています。

今後も、家庭や学校、関係機関と連携し、「こどもを真ん中に」安心できる環境の中で、こども達の成功体験を積み重ね、自分の気持ちを理解し表現し、さらに、相手を理解する力の向上を目指していきます。

保育所等訪問支援

3 学期の訪問で見るこども達の姿は、4 月と比べ大きな成長と変化が見られます。一人ひとりがこの 1 年間自分のペースでいろいろなことに挑戦し、好きなこと・得意なことを増やしてきたことを感じます。

昨年 4 月から今年 2 月までの 11 ヶ月間で訪問を実施した人数は延べ 500 名を超えました。訪問に行くたびにこども達の変化が見られています。その変化を所属園(校)の先生方と共有し、次のステップに向けての関わり方を一緒に考えてきました。現在のこども達の姿と必要なサポートを新学年により形で繋げていけるよう、今後の訪問では新学年への引継ぎを大切にしていきます。

保護者の皆様には、訪問事業へのご理解ご協力をいただきありがとうございました。事業評価アンケートでいただいたご意見を基に、こども達が安心して伸び伸びと生活していけるために訪問支援の質の向上・職員の知識向上に努めてまいります。今後もお気づきの点がございましたら、お気軽にご相談ください。



☆食育だより☆

冬の間、こどもたちは3つのメニューに挑戦しました！

- 12月：あったか豚汁づくり
- 1月：パリパリ！餃子の皮のチーズ巻き
- 2月：サクサク型抜きクッキー

活動では、食材を「こねる」「丸める」といった感触を楽しむだけでなく、ピーラーで皮をむいたり包丁で慎重に切ったりと、調理器具の使い方も練習しました。毎回、自分たちで作った料理が完成するのを今か今かと待ちわび、出来上がると「おいしい！」と元気いっぱい完食！

食育でご紹介した献立は、どれもシンプルで短時間で作れるものばかりです。ぜひお家でも、お子さんと一緒に楽しみながら作ってみてください。



療育ワンポイントアドバイス

今回のお悩みは…

降園時間になっても、外遊びがやめられない・・・ そんなときどうしたらいい？

そんなお悩みにお答えします☆



★理由はなんだろう？

- ・まだあそびたい
- ・ルーティーンが崩せない
- ・楽しくて夢中になっている
- ・終わりがわかりにくい

などの理由が考えられます。

★ポイントを紹介します！

ポイント①「終わりをきめ、見通しを伝えよう」

あそんでいる途中で急に、「帰るよ」と言われても楽しい活動ほど終わりが受け入れにくく、「まだあそびたい」という気持ちの切り替えができないこともあります。「時計の長い針が3になったらおしまいにしよう」「あと何回やったらおしまいにする？」「タイマーの音が鳴ったら、おしまいだよ」などお子さんと一緒に終わりのタイミングを決めてみましょう。「時計の長い針がもうすぐで、3になりそうだよ」や「あと、2回でおしまいだね」「タイマーがもうすぐ鳴りそうだよ」などのことばの予告や、時計やタイマーを使って視覚的に終わる時間を一緒に確認してみましょう！

ポイント②「事前にスケジュールを伝え、思いを受容しよう」

ルーティーンが崩せない子には、事前にスケジュールを伝えておきましょう。「帰ったら、ブロックで一緒にあそぼう」「帰ったら、おやつを一緒に食べようよ」「今から買い物に行くよ」など、お子さんがイメージを持てるようにスケジュールを伝えて見通しを持たせてみてください。行動に移した時や行動を移そうとした時にはことばやジェスチャーで褒めたり、認めたりしてあげてくださいね！

お子さんの気持ちに寄り添いながら繰り返し実践してみてください。気になることや困ったことがあればいつでも職員に声をかけてください。